4. 工夫が大切な漢字の与え方

絵本や漢字カルタを利用する

漢字を与える材料として、まず絵本があります。絵のところに、その絵に当る語を漢字で書いておくという方法があります。

動物絵本や、乗物絵本などがよいと思います。「犬･猫･馬･牛･猿･熊･象……」「汽車･電車･自動車･自転車･三輪車･飛行機･汽船……」というような漢字が考えられます。

子供が漢字を指して「これなあに」と尋ねてくれれば、教えるのには最も理想的です。しかし、押付けにならないように、「この猫の絵のそばにある字はね、“ねこ”と読む字なのよ」と軽く、話掛けるようなつもりで、付加える程度で十分です。

そうすれば、子供の方から、「じゃあ、犬のそばのこの字は、“いぬ”と読むのね」というように、むしろ自分から進んで発見していくものです。

幼児が、漢字を覚えるための玩具として、“漢字カルタ”というものがあります。犬の絵が表にあると、その裏に“犬”という文字があるものです。

絵本にせよ、漢字カルタにせよ、長い間に、ひとりでに覚えるのが理想です。「早く覚えたものは早く忘れやすい」という言葉を思い出して、読めるようになるのを気長に待つことです。

子供は常に背のびし、大人になりたがっているものです。大人のようにしたいのです。ですから、子供が楽しく漢字を読んだ時には、「お母さんと同じように読めるのね」と言って褒めることです。それは、読むことに対する子供の興味を増し、読字力の増大に一層輪をかけます。

㊀㊁㊂　「鳥」と「烏」

「からす」というのは、日本では一般的には「烏」の方を使っている。

【烏】　鳥より一画少ない字で頭の中の目がないことを表している字。普通の鳥と違い真黒で、目があっても目が見えないということでこの字が作られた。烏から目玉が取れたのが烏というわけだ。烏の中で「からす」だけがこうした独立した字を持つ。

カードで漢字遊び

幼児の教育は、すべて“遊び”を通して行うのがよろしい。漢字教育もまた、それ自身が遊びでなければ成功しません。私が幼い時の記憶では、かなを全部覚えたのは“いろはかるた”でした。カルタ遊びをしているうちに、絵と字とが結び付いて、いつともなく字形まで覚えてしまったものです。

現在では、“漢字カルタ”や“漢字カード”などが出ていて、すでに多くの家庭で利用されています。

“漢字カード”は、一般的に、口･目･耳などの基本漢字、先生･幼稚園などの熟語、歩く･遊ぶなどの動詞、重い･長いなどの形容詞がそれぞれ教十個、その他全部で教百枚一組になっています。表が絵、裏が漢字のカードもあり、いろいろなゲームをして遊ぶうちに、いつか名詞･形容詞等を漢字で覚えてしまうので、文章を読むのにすぐに役立つという効果があります。

本書カバーに「輪郭漢字カード」を付けましたので、試してください。

家の中に漢字で名札貼り

幼稚園でよくやっているものに、“名札貼り”があります。実物には、机･黒板･時計･柱･壁･窓･花瓶……など、廊下には「静かに」、「走らない」とか「右側を歩く」とか、洗面所には「手を拭く」とか、滑り台には「順序よく」とか、注意を書いた札が貼られています。

こういう幼稚園では、下駄箱の名札は、もちろん、漢字です。かなだとなかなか自分の場所が見付からず、混乱していたものが、漢字に改めたらすぐに見付かるらしく、混乱がなくなってしまった、ということです。

家庭では、名札貼りは来客を驚かして、具合が悪いでしょうが、子供部屋があれば、これは出来ます。あるお宅では、お手洗いに、毎日、漢字カードを変えて貼っている、というお話を聞きました。「それほどまでにしなくても」とお考えの方も多いと思いますが、良いこと、役立つことは、工夫して実行してみることが、大切ではないでしょうか。それが成功への鍵ともなるのです。そして、どこまでも必要なことは、親子ともどもに楽しむ雰囲気で行わなければだめだということです。

体験を漢字にして示す

「熱い」という字は、「あつい」と読めただけでは、本当にこの字が読めたとは言えません。「冷たい」とどう違うかが解らなければ、読めたことになりません。

こういう漢字の指導は、二本の瓶に、「熱い」「冷たい」という漢字を書いた紙を貼っておき、それぞれ、熱湯と氷水とを入れておいて、子供に瓶に触れさせるのです。

子供は、二つの瓶に触れることにより、熱いことの体験と、冷たいことの体験をし、その体験をそれぞれの漢字と結び付けるようになるでしょう。

こうして、「熱い」という漢字を見れば、そこに熱湯が入れてなくても、触れて熱かった時の経験が思い出され、その感触がよみがえるようになり、ここで初めて「熱い」という漢字が本当に読めたことになります。

長い・短い・重い・軽い・太い・細い・広い・狭い・大きい・小さい……こういう漢字も、同様にして、単に発音できるようにするだけではなくて、体得させなければなりません。

例えばマッチ箱を二つ用意して、一つには鉛などの重い物を入れ、これに「重い」と書いておき、もう一つには綿でも入れて、「軽い」と書いておく。「長い」「短い」は、使い古しの二本の割箸を利用してもよいでしょう。この場合は、漢字を書いたカードを、糸で箸に結び付けておくのです。

「太い」「細い」「大きい」「小さい」……「丸い」「四角」「三角」「白」「黒」…も同じことです。このようにして教えます。

コラム　豆知識

おじさん	おばさん
小父→よその男性	小母→よその女性
叔父→父母の弟	叔母→父母の妹
伯父→父母の兄	伯母→父母の姉

小さい子供は親戚の人や近所の人など自分の両親以外の大人を、皆「小父さん、小母さん」と呼ぶ。最初に覚えるのは、広い意味の「小父さん、小母さん」がよい。親戚関係が判るようになると、叔父・伯父などの意味の違いを理解していく。